

# 長泉町 ふるさと カルタ

解説

## 参考資料

- 星屋一浩『ふるさとかるた』平成20年
- 長泉町郷土誌増補版編さん委員会『長泉町史 上下巻』平成4年
- 長泉町教育委員会『ながいずみ』平成15年改定版
- 長泉町文化財保護審議会『長泉歴史探検マップ』平成19年改定版

## あ

### 愛鷹の沢水集めた桃沢川

桃沢川は愛鷹山位牌岳に発し、南東に流路をとり下長窪尾尻に至つて黄瀬川に注ぐ、全長約12.5kmの流域に豊かな自然を残す掛替のない川である。愛鷹の山体を八方に刻む放射谷を俗に愛鷹の百沢「モモサワ」といつていたが、この「モモサワ」が後に桃沢川の固有名詞になった。

## う

### 海の神龍神まゝる愛鷹山水神社

愛鷹山の桃沢川上流、標高約600mの自然豊かな景勝の地に、愛鷹山水神社はある。流量豊富な清流に沿つて樹木がうっそうと繁る自然の中に、明治38年(1905)に建立された、三層の客殿と本堂庫裏を備えた神社である。八大龍王(龍神)を祀り、海洋渡航者や漁師などの信仰を集めていた。

## い

### 伊豆繫ぐ下土狩から豆相線

明治31年(1898)東海道本線の複線化に伴い、旧三島駅(現・下土狩駅)が開業した。同時期開業した豆相鉄道(現・伊豆箱根鉄道)は、三島田町駅から旧三島駅まで路線を延長し、東海道本線(現・御殿場線)に接続した。旧三島駅は、井上文学「しろばんば」の洪作少年も利用した駅で、駅前記念碑がある。

## え

### 江戸時代地震で湧き出た窪の湧水

竹原地区の「窪の湧水」(別称「小僧池」・「富士湧水池」)は、江戸時代の安政元年(1854)11月4日の大地震の際に湧き出たことが、本宿高田家に伝わる古文書に記されている。湧水が伏見窪に位置することから「窪の湧水」という名がついた。この湧水は農業用水や製紙会社の操業用水として使われてきた。

## お

### 御長屋は集団移住の士族集落

明治維新後、徳川の家臣が元長窪に集団移住し、士族集落が誕生した。集落は、江戸の仙台藩屋敷を買い取り、品川から沼津まで船で運び再築した32戸と、愛鷹山の木を伐り出し新築した長屋形式46戸、計78戸で構成されていた。士族が住む長屋形式の住宅であったことから、「御長屋」と呼ばれるようになった。

## か

### 亀鶴姫の伝説ありし鮎壺の滝

鮎壺の滝(別称「富士見の滝」)は、富士山三島溶岩流の末端にできた滝で、平成8年(1996)に県の天然記念物指定を受けた。昔、亀鶴という美しい娘が、亡き両親のため写経をして暮らしていた。巻狩りに訪れた頼朝が、娘を召出させようとしたが仏門の身ゆえと固辞し、滝に身を投じて貞節を守ったという伝説がある。

## き

### 黄瀬川より隧道流れる本宿用水

鮎壺の滝の上から取水して本宿耕地に向かう灌漑用水で、慶長8年(1603)頃完成した。隧道の長さは初め508mだったが、安政の大地震(1854)で陥没した後、新しく掘削復旧させた結果、今では698m程ある。隧道出口は、協和発酵キリン富士工場内にある。

## く

### 暮らし易く集う町民 四万人

長泉の名称は、大岡荘の長窪地区から「長」の字、小泉荘から「泉」の字をとった合成地名である。昭和35年(1960)町制施行時、人口は約15,800人、約2,700世帯であった。長泉町は暮らし易く、確実に人口が増加し、平成21年(2009)4月現在の人口は、40,276人、16,223世帯である。

## け

### 県民の健康守るがんセンター

静岡県が運営する「静岡県立静岡がんセンター」は、がんの診療及び研究を専門的に行っている施設で、長泉町下長窪の丘陵地に建っている。静岡県が推進する「ファルマバレー構想」の中核施設であり、平成14年(2002)9月6日の開院である。

## こ

### 国府津より沼津に走る御殿場線

東海道本線は、明治22年(1889)に東京・神戸間(約20時間)で開業したが、富士山と箱根連山の山間地を走る御殿場ルートであった。丹那トンネルの開通に伴い、国府津・沼津間が御殿場線として生まれ変わった。つまり御殿場線は、昭和9年(1934)まで東海道本線の一部であった。